

通常学級で 学習に困難を 抱える子どもへの デジタル教科書を 活用した支援

01

読み書きアセスメント

東京学芸大学附属小金井小学校

佐藤 牧子

鈴木 秀樹

02

iPad×読み上げApp

03

デジタル教科書の活用

研究の目的

通常学級において、学習に困難を抱える子供に対し、学習の困難さを把握するためのアセスメントと、学習者用デジタル教科書を活用した読み書きの困難さへの支援とその有効性について明らかにする。



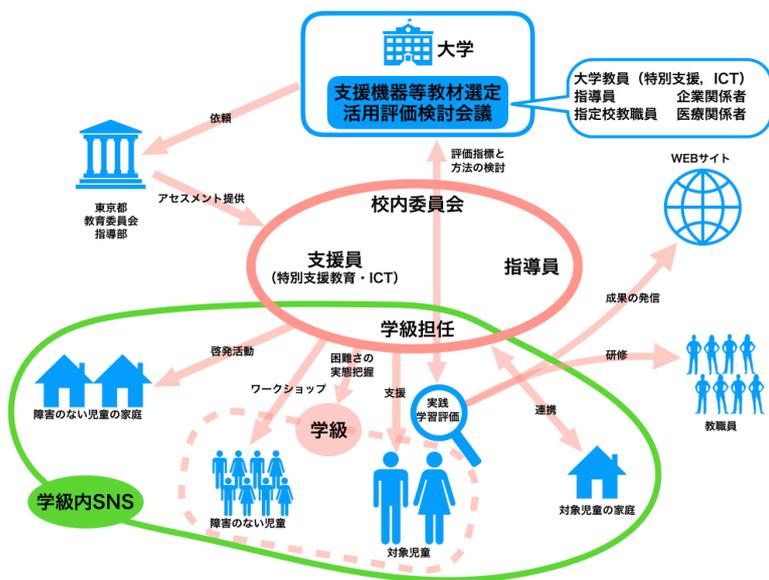
PC版読み書きアセスメント で学びの困難さを把握

「タブレット版読み書きアセスメント」により対象の3年生児童1名について①平仮名の流ちょうな読み（コーディング）、②特殊音節の読み、③漢字の単語読み、④漢字の単語書き、⑤音韻⑥数字の順唱・昇順（聴覚記憶）、⑦読解の7項目について困難さを把握。①②に対する支援の必要性が指摘されたため、一定期間のトレーニングを行い、音読時間において優位な改善が見られた。



タブレットのアプリを活用 した合理的配慮の実施

学期末テスト時にプラス30%の時間延長と、テストの問題文の音声読み上げによる支援が医師等より提案された。合理的配慮に基づき音声読み上げを行うことで、他の子供と同じ時間内にテストを終えることができ、平均点も以前までの結果よりおよそ20%正答率が高い結果となった。



東京学芸大学附属小金井小学校における支援の概念図



学習者用デジタル教科書で インクルーシブ教育を実現

5年生児童32名を対象として、学習者用デジタル教科書（光村図書出版・国語）を活用した授業実践を行った。学習者用デジタル教科書に実装されているリフータブ、マイ黒板等の機能を活用することにより、通常学級に在籍する読み書きに困難を抱える子供に必要な支援を行いつつ、そうでない子供にも学びが活性化するような授業デザインが可能であることを確認することができた。本実践については7月14日に開催した「東京学芸大学附属小金井小学校 ICT×インクルーシブ教育セミナー」において公開授業の形で発表した。